

第2回 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 議事録

日 時	令和2年4月8日(水) 午前9時20分から午後5時40分まで
開催場所	青葉区役所3階304会議室
出席者	<p>【選定委員会委員】</p> <p>委員長 横山 順一 (日本体育大学教授)</p> <p>委員 (50音順)</p> <p>相原 照世 (青葉区老人クラブ連合会)</p> <p>大平 良樹 (東京地方税理士会緑支部)</p> <p>杉浦 一夫 (青葉区連合自治会長会)</p> <p>中野 しずよ (特定非営利活動法人市民セクターよこはま)</p> <p>平野 香菜 (青葉区民生委員児童委員協議会)</p> <p>山田 範子 (特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブパレット)</p> <p>山田 秀樹 (㈱フィールズ第三者評価事業部)</p> <p>【事務局】</p> <p>青葉区福祉保健センター担当部長 吉田 雅彦</p> <p>青葉区福祉保健課長 滝本 潔</p> <p>青葉区福祉保健課事業企画担当係長 神田 紗弥加</p> <p>青葉区福祉保健課事業企画担当 小池 由季、本田 祥子、山口 慎太郎</p>
欠席者	有り 中野 康子 (青葉区中途障害者地域活動センター「青葉の風」)
開催形態	公開 一部非公開 (応募者からのプレゼンテーション、委員からの質疑、審査及び指定候補者等の決定 (傍聴者0人))
議題	<p>(1) 会議の公開・非公開について</p> <p>(2) 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者公募について</p> <p>ア 審査までの流れ、採点の考え方、選定方法について</p> <p>イ 応募団体に対するヒアリングの実施について</p> <p>(3) 応募団体プレゼンテーション</p> <p>(4) 質疑応答</p> <p>(5) 指定候補者の選定</p>
決定事項	<p>指定管理者の候補者 (以下「指定候補者」という。) 及び指定候補者を指定管理者として指定できない場合に指定候補者に代わって指定候補者となる者 (以下「次点候補者」という。) として、次のとおり、横浜市青葉区長に報告することとする。</p> <p>1 横浜市荏田地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者</p> <p>指定候補者：社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会</p> <p>次点候補者：該当なし</p> <p>2 横浜市もえぎ野地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者</p>

	<p>指定候補者：社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 次点候補者：該当なし</p> <p>3 横浜市さつきが丘地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人 みどり福祉会 次点候補者：該当なし</p> <p>4 横浜市すすき野地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人 若竹大寿会 次点候補者：社会福祉法人 緑成会</p>
	<p>1 審査に係る確認</p> <p>(1) 会議の公開・非公開について 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会運営要綱第9条により原則公開、ただし、「指定管理者の選定に関する審査のうち、応募団体の面接審査」及び「指定管理者の選定に関する審査及び指定候補者の選定」については、同要綱第9条ただし書きにより、非公開とすることを確認した。</p> <p>(2) 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者公募について</p> <p>ア 審査までの流れ、採点の考え方、選定方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員の大項目（1～6）の合計点数が60%以上で、かつ各大項目（1～6）において40%以上の得点を得た場合のみ、選考の対象とすることを確認した。 <p>イ 応募団体に対するヒアリングの実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体のプレゼンテーション・質疑応答後に、委員間で意見交換することを確認した。 <p>ウ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体の応募状況について、8日実施分は5団体から応募があったことを報告。選定及び本日の選定の進め方について、確認した。 ・神奈川県警に照会した結果、資格要件の「暴力団又は暴力団経営支配法人等ではないこと」に関して、該当しないとの回答を受けた旨を事務所から報告した。 ・政策局共創推進課に横浜市税の納付状況調査の確認を行った結果、資格要件を満たしているとの回答を受けた旨を事務所から報告した。 <p>2 応募団体によるプレゼンテーション及び面接審査</p> <p>(1) 横浜市荏田地域ケアプラザ</p> <p><主な質疑応答></p> <p>(委員) 障害者の施設と併設しているが、施設の利用促進にあたりどのような活動を考えているか。</p> <p>(団体) 地域の防災訓練に参加していただいたり、地域の中に利用者が出ていけるように連絡会を設け、ケアプラザからえだ福祉ホームに情報を聞いたり、お伝えしたりしている。</p> <p>次期の指定管理期間においては、「多様性の理解」を進めたいと考えている。</p>

そのうえで、えだ福祉ホームの協力は欠かせないと思う。どうしたら利用者の方に参加いただけるかを考えていきたいと思う。

(委員) 多世代交流は必要だと思うが、難しい面もあると思う。どうやって行くのか。

(団体) 「みんなのえだ広場」については、学校やデイサービスの終了時間に合わせ17時～20時を想定し、夕食を一緒に作ることを考えている。

荏田、新荏田地区にはこども食堂がないので、地域の協力を得て、こども食堂を兼ねたものを作りたい。様々な方が来やすいように、デイサービスにある麻雀やカラオケなどを利用し、遊びを通じた交流を考えている。

月1回の実施を想定しているが、担い手のボランティアの方と考えながら進めていきたいと思う。

(委員) サービスの創出について、いわゆる住み開きのサロン活動に着目しているが、事例はあるのか。空き家を所有者からお借りして、多世代交流が出来る場所として開けるような兆しはあるのか。

(団体) 地域のご自宅でサロンを開設している例があり、そこには、普段ケアプラザを利用しない方が参加している。そのほか、5人位で個人としてサロンを行っている例が3～4か所あるので、ノウハウを聞きながら、地域の方と一緒にケアプラザでも進めていきたいと考えている。

(委員) ケアプラザが地域であまり知られていないと聞くが、どのように地域にケアプラザの周知や広報を行っていこうと考えているか。

(団体) 自治会長が変わる際は、職員2人で地域の情報などを説明しに伺っている。定例会や班長会に参加させていただいたり、自治会のサロンに出向いて周知している。大きな自治会については、マンションの管理組合やマンション単位で、マンション用の広報を作り周知をした。

(委員) 認知症サポーターについて、まだPRが足りないと考えている。実態やPRについてどの様に考えているか。

(団体) 福祉教育の一部として、認知症サポーター養成講座を荏田小学校で実施している。

元パイロットの方など、子どもが憧れるような職業の方を招いてお話しいただいたり、認知症でも周りに支えられながら前向きに自分らしく地域で生きていくことができることをお伝えし、子どもたちに前向きな高齢者像と、認知症になっても暮らしていけるまちづくりや、こういう支えがあれば認知症になっても地域で暮らしていけるということを伝えていきたいと考えている。認知症サポーター養成講座も、銀行、スーパーからも相談を受けており、企業との連携を積み重ねているところである。

(委員) 認知症について、高齢者にとっては自分がならないための健康管理について関心があるのでそういうことも取り入れてほしい。

(委員) 法人の財務状況について、中長期的な運営の安定性について計画や改善な

どほどの様に考えているか。

(団体) 通所介護の改善に向けてアドバイザーに意見を伺っている。無駄な支出や改善について見いだしている。利用者を増やすのも地域性もあり限界もあるので、どこで収益が出るのかについて改善策などを見いだしている。

(委員) サロンなど行事の際に、送迎の車を出しているのか。

(団体) ケアプラザから遠い地域について、買い物のアンケート(350世帯全戸配布)を行った。試行実施としてケアプラザの送迎車を提供し、買い物ツアーを実施した。ある自治会では、地区社協が、近隣のデイサービスに送迎の打診をして、送迎サービスを作っているところもある。デイサービスを紹介するなど、ケアプラザはその情報をお伝えするなどつなぎ役をしている。荏田地域ケアプラザでは、えだ家という配食サービスがある。お弁当を作る人と配達する人が異なり、作る人が利用者と顔を合わせる機会がなかったため、昨年度初めて実施した取組として、ケアプラザで会食会を設定した。配食を必要とする人は自力で家から出る方が難しい方がいるため、ケアプラザの車を利用し、個人宅にお迎えに伺い、ケアプラザに来てもらって実施した。

(委員) 次の5年に向けて課題として捉えているところは何か。5年間の変化をどのように捉えているか。

(団体) 5年前はケアプラザは何をしてくれるのかという質問が多かったが、この5年間で、地域福祉保健計画を基本ベースとして、荏田地区、新荏田地区に対して、地区別計画の必要性をお伝えしてきた。

地域の方に、皆さんがやりたいことを載せてきましょうとお話すると、ケアプラと一緒に取り組むことで、計画が進むということを理解してくれた。安否確認見守りタオル、挨拶運動などの取組について、ケアプラザ、区、区社協と一緒に進めようという意識の変化があった。主役は地域なので、そこにケアプラザが入っていき、そしてケアプラザの役割を示して、具体的な成果をお見せしていく必要があると思う。

(2) 横浜市もえぎ野地域ケアプラザ

<主な質疑応答>

(委員) 歩いて行ける場所でのサロンの開催などについて、具体的にどのようなことを考えているか。

(団体) 自治会館やコミュニティハウスや事業所を借りてサロンを開催している。場所の確保が課題の一つ。

(委員) 元気づくりステーションについて、何か所あるのか、どんな場所、どんな頻度で行っているのか。

(団体) もえぎ野地域ケアプラザエリアでは、元気づくりステーションは1か所ある。月に1回、もえぎ野ケアプラザで実施している。

(委員) 担当地域の課題と将来像について。見守り体制の強化として、どういうことを行ってきたのか。

(団体) 民生委員による見守りには限界があると考え、1人でも多くの方が見守りの輪に加わり、地域のことを気にかけてほしいと考えている。
まずは商店会に協力を呼びかけ、高齢者110番のステッカーを作成し配った。お店からは、この取組を広げようとの声上がり、エリア内の150店舗の協力がある。個人の方だけでなく、企業や事業者にも協力を得たい。

(委員) 妊娠期から18歳までの子育て世代について、地域課題をどの様に考えているのか。

(団体) 出産を機に地域デビューする人が多い。親子の広場を開催している、地域での区主催の子育てイベントには、ケアプラザの職員も協力している。お困りごとについて相談に応じたり、関係機関と情報共有しサービスなどを紹介している。サロンや子育て広場に参加するのが苦手な方にはアロマの講座などのイベントを一緒に行ったりしている。

学齢期の子どもについては、フリー学習スペースを行っている。共働き世帯も多いため、貧困家庭だけではなく、一人である子どもの居場所として参加してもらっている。もえぎ野地域ケアプラザが会場であるが、子どもたちにとっては、ケアプラザが身近な場所でない子もいるので、開催場所についてもボランティアと相談しながら行っている。学校の先生が行っている学習スペースもあり、そこにボランティアの方が協力し、子どもたちの声を拾ってきてくれている。

(委員) あおば支援学校との関わりについてどのように考えているか。

(団体) 登下校の見守りについて、地域と協力をしたいと考えており、ボランティアを募っていききたい。配膳のボランティアが必要など、学校ともどのようなボランティアが必要なのか意見交換をして協力をしていきたい。

学校の中に、パンを作るスペースがあるため、ケアプラザだけではなく、学校に来る子供とも一緒にできたらよいと考えている。

(委員) 担当地域のアセスメントをしているが、地域の強みはどの様に捉えているか。

(団体) ケアプラザが相談すると、すぐに応えてくれる地域。一緒に考えてくださる。それが強み。

(委員) 経費の年度計画について、人件費、事業費、事務費が5年間同じだが、増減などについて感じているところはあるか。

(団体) 経費は常に改善を考えており、無駄は省くようにしている。提出した資料は、過去3年間の平均で算出しているため、経年変化については加味していない。

(3) 横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

<主な質疑応答>

- (委員) セルフネグレクトを、誰が・いつ・どのような状況で発見するのか。またその対応についてお聞きしたい。
- (団体) 8050 問題として、サービス事業所や民生委員が気づくケースなど、周りの方が気づくケースが多く、ケアマネからの相談が入ることもある。困ってから相談があることが多い。
対応については、訪問しながら状況を把握し、区役所と相談したり、医療機関と連携し救急車を呼んで病院につないだりしたこともある。
- (委員) 職員の育成について、職員のキャリアラダーの設定方法について紹介してほしい。
- (団体) 職員の経験年数や資格をもとに、面接などを行いながら、職員に合った研修計画を作っている。また、本人にも主体的に参加してもらうようにしている。
- (委員) 生活困窮ケースワーカーとケアプラザの地域包括支援センター職員の連携について、ごみ屋敷問題のケースがあれば教えて欲しい。
- (団体) ごみ屋敷は全国的な問題である。行ってからごみ屋敷と気づく方も多い。未然に防ぐことをやっていきたい。そこまで気づくのに時間がかかるが、生活困窮ケースワーカーから情報をいただき、協力し取り組んだことがある。大家もどこに相談したらよいかわからずに困っているケースがある。包括と情報共有し、区とも連携して、経済的なことを区で支えてもらい、安心安全な暮らしができた方がいる。
- (委員) ケアプラザを知らない方が多い。幼児や高齢者が主となりがちだが、小中学生にもケアプラザを知ってもらいたい。小中学生がケアプラザに来てもらうような行事はあるか。
- (団体) 秋祭りが1年に1回ある。3千人近くの方にご来場いただいた。子どもや中学生の参加も増えてきた。夏休みには自習室を設けて宿題をやったり、冬休みは講座を開いたり、宿題のお手伝いをしている。子ども食堂にも中学生が来ている。ケアプラザに来る子どもの年代の幅が広がってきていると感じる。
- (委員) 環境の取組に対して具体的にどのような活動をしているか。
- (団体) 太陽光発電の設置があり、そのエネルギーの活用をしている。また、分別の徹底を図り、ごみの削減を徹底している。ケアプラザ周辺の清掃活動もしており、環境保全として地区社協への取組はなかなか参加できていないが、今後も協力していきたい。
紙の削減をしている。個人情報に関する資料は委託業者に回収してもらっている。
- (委員) 人件費率が平均より上回っている。資金計画をみると上昇しているが、法人としての今後の見通しは。

(団体) 2015年と最低賃金が100円以上開きがある。1年間に換算すると人件費は増えている。

子どもの事業が多くなると、危険が伴うため職員の配置が多くなり、ケアプラでの人件費が多くかかるのは止むを得ないと考えているが、必要に応じて法人でもバックアップしていきたい。

(委員) 4期はどこに力を入れていきたいか。

(団体) ケアプラザ周辺は宅地開発などが進んできていて、若い方が入ってきている。ケアプラザは子どもに関する施策が薄いので、子どもに関する企画に力を入れていきたい。また、ケアプラザ近隣の保育園と連携もしているので、今後は、障害者施設とも連携を深めたい。

(委員) ニーズの把握について、アンケートを行っているが、声にならない声もあると思う。ケアプラザ側から出向いていくという活動はどのように考えているか。

(団体) 熱中症予防のチラシを持って地域に出向き、ポストインしながら、地区社協にも伺い、地域の情報や近所のことを情報収集している。ケアプラの発行物に協力医の内容も載せており、情報誌を持って地域に出向いていっている。

(4) 横浜市すすき野地域ケアプラザ (応募団体：緑成会)

<主な質疑応答>

(委員) ボランティア活動をされる人が多くなってきたが、工夫したことや理由はあるのか。

(団体) 当法人の運営が始まったのが約30年前。最初は地域の方がボランティアをしてくれた。入居者のクラブ活動や課外活動や普段の生活の支援や補助をしてもらった。ボランティアの皆さんは、ボランティア活動をすることに、やりがいがあると話しされており、ボランティアをされた方からの声掛けで、ボランティアを始める方も多く、現在のボランティア数に繋がっている。法人では年に数回ボランティア意見交換会や感謝会を行い、それが実を結びボランティア活動に繋がってきていると感じている。

(委員) 地域包括ケアシステムの機能や役割を高齢者から子育てにシフトしていきたいとのことだが、具体的な取組を教えて欲しい。

(団体) 地域包括ケアシステムというと高齢者の支援というイメージがあるが、地域ケアプラザの機能としては子どもから高齢者まで対象を絞らずに誰もが支援を受けられる施設である必要がある。黒須田地区は子育て世帯が多いと聞いている。

拠点として行っているところが高齢に力を入れているところが多いので、地域ケアプラザとしては子どもの居場所づくりをしていきたい。

(委員) コミュニティカフェの運営を計画されているが、担い手や形態、経費はど

うするのかなど、どのように計画されているか。

(団体) 具体的な形態は今後考えていく。すすき野地区には集えるような拠点がい
くつかあるが、入りにくいという声もある。さまざまなカフェがある中で、
選んでいけるということコンセプトにしたい、障害の方も入りやすいカ
フェなど、対象を絞ることなく、いろいろな方に来ていただけるようなカ
フェにしていきたいと考えている。担い手についても、地域に協力してい
ただける方もこれまでの関わりの中でいらっしゃると思うので、そういう
方とともに地域の力として作っていきたい。

(委員) 就労の機会を提供したいとあるが、就労としてカフェで地域の方を巻き込
む計画はあるか。

(団体) 収入を求めての就労への支援はどこまでできるか。8050 問題などに関連し
て、地域貢献し社会とのつながりを持つ場になっていけたらよいと考え
ている。

(委員) 5年間の予算の見込みについて、人件費が5年間同じだが最低賃金のアッ
プなど予測されないといけないと思うが、人件費についての折り込みはど
う考えているか。

(団体) 給与改定を3年前に行った。それに伴い、指定管理料の管理費に加えて、
法人の運営とも合わせて考えている。

(委員) 障害者の支援として、会場をお貸ししているようだが、今後どのような対
応をしていくか。あおば支援学校との連携についてはどのように考えてい
るか。

(団体) 当法人では、青葉区内で障害施設（生活介護）の運営サービスを始めた。
当初は5人だったが、現在は16人を受け入れている。青葉区北部エリア（た
まプラーザ、すすき野）は重度の障害者の受入れ施設が不足している。他
で受け入れられなかった方の受け入れを行うようにしている。養護学校
の卒業生も多く利用していただいている。すすき野地域ケアプラザの運営
ができれば、もっと広く障害者施設への呼びかけを行ったり、連絡会のよ
うなものをつくって連絡協力関係を築きたいと考えている。あおば支援学
校との連携も図っていきたいと考えている。

(委員) すすき野地域ケアプラザの担当エリアでの現行の課題をどの様に捉えてい
るか。

(団体) 中里地区とすすき野地区で地域課題が違っていると感じる。中里は昔からの地元
で根付いた地域性がある。地域の行事を通じて地域の支援者を増やしてい
きながら考えていきたい。すすき野地区では地区社協の理事会にも参加し、
地域の方の声を伺っている。自治会活動が停滞している地区もあり、これ
から発展させていきたいとも聞いている。

子どもの引きこもりや、地元での就労機会がないという課題があると感じ
ている。介護業界の人手不足などもあるので、うまくつなげていけるかと

思うが、そこに住んでいるということ意識した取組をしていく必要があると感じる。

(5) 横浜市すすき野地域ケアプラザ（応募団体：若竹大寿会）

＜主な質疑応答＞

(委員) 次期に向けて一番力を入れたいことは。男性に活躍していただくための具体策や、少子化に向けた具体策があれば聞かせてほしい。

(団体) 世帯の縮小と孤立化から派生する様々な課題がたくさんあるが、複合的な課題を抱える家庭もでてくる。一つの制度では解決できない課題に対してケアプラザを起点として地域の様々な機関と連携した取組を進めることを一番大切に考えていきたい。男性の参加について、ケアプラザでは不登校の方の対策として、福祉農園を利用した事業を考えており、そこに男性の活用を考えている。男性を対象とした料理教室、家事の教室を60代前半の方に提供し、そこから様々な事業につないでいきたいと考えている。少子化の問題は、高齢化とセットになる。担い手がいらないが、様々な人材の発掘を通じて、制度だけではカバーできない仕組みづくりを考えていきたい。

(委員) 単館でデイサービスもない。利用率の向上についてどのような工夫を考えているか。

(団体) ケアプラザでの自主事業で、参加者を多く集める。そしてケアプラザに来てもらい、ケアプラザがどういう場所かを理解してもらい、そこから皆様に利用してもらいたい。

高齢者でもインターネットを使う方も多く、ホームページやブログを見てもらっているので、ケアプラザに行かなくてもケアプラザの情報が得られるということを強化して利用率の向上に努めたい。現在は、新型コロナウイルスの関係で集まりたくても集まらない事象が生じているため、動画の配信などを行うことで、震災などに対応できる仕組みづくりをしたい。

(委員) 居宅介護支援事業について、ケアマネジャーをチームのリーダーとして、チームになって支えると思うが、在宅の看取りについてこれまでとこれからの見通しについてどのように考えているか。

(団体) 状況としては、最終段階のケアプランを立てる時は、主に5か所の診療所と連携をとっている。ケースや本人や家族の状況や希望によって、先生を紹介している。青葉区医師会や在宅支援診療所、訪問看護ステーションなど青葉区で進めているICTを使った連携システムにより、タイムリーな連携でお看取りを行っている。どのような最期を迎えたいかなどケアマネジャーと話し合うなど対応している。

(委員) 利用者のニーズ・苦情対応について、利用者アンケートの実施やご意見箱を設置していると思うが、利用されている方だけでなく、今後利用される

方に対するニーズ把握の仕方について、どの様に考えているか。

(団体) ケアプラザに来なければ把握が出来ないのではなく、ケアプラザの職員が地域を歩いたりして、地域の方々と会いその機会を生かしていく。すべての場面で様々な声を拾い、5職種と所長の会議で情報共有をするなど、些細なことでも耳を傾けていきたい。

(委員) 災害時のBCPについて、地域のBCPも考えているとあるがどのようなことか。

(団体) BCPという機能だけの復興計画ではなく、地域全体のことを考えないといけない。ケアプラザの業務継続だけではなく、自治会、町内会と一緒に、どうやって継続していくのかを、地域福祉保健計画をもとに、セットで考えていきたいと思う。

(委員) 次期の受託に向けて、地域の課題について大きく変わったところをどの様に捉えているか。

(団体) 1つの家庭の中で、複合的な課題を抱えている家庭が増えてきている。孤立をして支援が必要なのに、支援を求めない、支援の必要性を感じていない方、セルフネグレクトが増えてきている。今までは、近い人が支援に結びつけたのかもしれないが、相談にたどり着かず、大変なことになってから知ることがある。そのようなことに対して、もっと手前で知りたいし、もっと手前で支援をする仕組みを、地域の様々な機関とネットワークを作っていきたい。

3 指定管理者の候補者の選定

プレゼンテーション及び面接審査並びに事務局から前期の指定管理業務の実績に係る報告を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

(1) 横浜市荏田地域ケアプラザ

ア 指定候補者

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会

[評価得点/満点 : 1,794点/2,520点]

(審査講評)

- ・障害者施設との併設施設であることをケアプラザの事業において生かしてほしい。
- ・青葉区の環境から、高齢者がケアプラザの行事などに参加しにくくなっている状況もあるため、地域のボランティアと協力するなど、移動支援について企画をしてほしい。
- ・246号線を境に、ケアプラザに行きにくいという声を聞くことがある。ぜひケアプラザから外に出向いて行ってほしい。

イ 次点候補者
応募団体が1団体のため、該当なし。

(2) 横浜市もえぎ野地域ケアプラザ

ア 指定候補者
社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
〔評価得点／満点：1,785点／2,520点〕

(審査講評)

- ・地域の特性を生かし、ケアプラザ独自の取り組みを行ってほしい。
- ・次期指定管理期間において、地域がケアプラザに求めていることは変化してくると思われる。地域の実情を把握し、ケアプラザが独自性を示して、次期指定管理へのステップに生かしてほしい。

イ 次点候補者
応募団体が1団体のため、該当なし。

(3) 横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

ア 指定候補者
社会福祉法人 みどり福社会
〔評価得点／満点：1,803点／2,440点〕

(審査講評)

- ・地域と連携し、関係機関などと協力しながら、信頼実績を重ね地域支援を進めている。
- ・次期指定管理期間では現指定管理期間と比較し、何を大切にし、どの様なことに力を入れていきたいのかを明確にしてケアプラザの運営を進めてもらいたい。

イ 次点候補者
応募団体が1団体のため、該当なし。

(4) 横浜市すすき野地域ケアプラザ

ア 指定候補者
社会福祉法人 若竹大寿会
〔評価得点／満点：1,839点／2,400点〕

(審査講評)

- ・地域課題や地域の現状について、地域に出向くなどしてよく把握しており、幅広い分野で着実に事業を実施している。
- ・今後も、地域と密着し関係機関等としっかり連携しながら、幅広い分野で積極的に事業を進めることを期待する。

イ 次点候補者

社会福祉法人 緑成会

〔評価得点／満点：1,595点／2,280点〕

(審査講評)

- ・地域の現状、課題を認識し、関係機関などしっかりと連携をしながら、子どもから高齢者・障害児者の地域支援を積極的に進めてほしい。

指定候補者の得点は、いずれも最低制限基準を満たしているため、選定委員会として社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会他を指定候補者として選定することを決定する。